

## 泌尿器科シニアレジデントプログラム

### 1. 診療科の特色とスタッフの紹介

部長 西村昌則

医師数 4人

資格等 日本泌尿器科学会専門医 4人、同指導医 3人

泌尿生殖器疾患全般に渡り、幅広い守備範囲で治療を行っている。特に、尿路悪性腫瘍においては、癌の根治性は勿論のこと、術後の QOL に重点をおいた手術を施行している。

現在、泌尿器科医 4人で診療にあたっており、年間入院患者数 323人、年間外来患者数 11,995人、年間手術件数約 300例で、中程度の規模であるが、診療レベルはトップクラスである。日本泌尿器科学会の専門医基幹教育施設である。

### 2. 研修期間

当科における研修は、「京都大学および関連施設における泌尿器科専門医教育プログラム」に沿っており、前期 2年、後期 2年の計 4年間で研修期間となっている。また、4年の研修期間の内、1年間は、京都大学での研修を必須と定めている。尚、当院のみで研修を希望する場合、あるいは短期の泌尿器科研修を希望する場合は、別途考慮する。

### 3. 目標

#### 1) 一般目標 (GIO)

日本泌尿器科学会専門医取得を目標に泌尿器科の専門的知識および診断的、治療的手技を習得する。

#### 2) 個別目標 (SBO)

- ① 外来患者の診療を責任を持って行える。
- ② 入院患者の診療を行い、治療方針を決定できる。
- ③ 各種検査を適切に選択して実施し、その評価ができる。
- ④ 術前術後管理において必要かつ適切な指示、評価、処置ができる。
- ⑤ 術後合併症を診断でき、適切な処置ができる。
- ⑥ 癌化学療法、放射線療法について十分な知識を持ち、適切に実施できる。
- ⑦ 電子カルテ上で、カルテの正確な記載ができ、診療情報提供書等が作成できる。
- ⑧ 患者、家族および他科医師に対して正確かつ平易に説明できる。

研修期間中に経験すべき手術 (主なもの)

1群：執刀医として実施できる

経尿道的膀胱、前立腺手術、陰嚢内手術、包茎、精管結紮術、経皮的腎瘻造設術、経尿道的尿管結石砕石術（TUL）、尿管皮膚瘻造設術、顕微鏡下精索静脈瘤手術

2群：指導医の下で手術を自ら実施できる

根治的腎摘除術、腎尿管全摘除術、根治的前立腺摘除術、根治的膀胱全摘除術、回腸導管造設術、腹腔鏡下手術（副腎、腎、尿管全摘除術）、腎盂、尿管の内視鏡手術、女子尿失禁手術（スリング）、経皮的腎砕石術（PNL）

3群：手術の助手をつとめることができる

腎部分切除術、腎盂形成術、自然排尿型代用膀胱造設術、膀胱瘤根治術（6 corner suspension）、後腹膜リンパ節廓清術、顕微鏡下精管・精管（精巣上体）吻合術

#### 4. 方略

（週間スケジュール）

	月	火	水	木	金	土
AM	症例検討 病理カンファ	レントゲンカンファ 回診	症例検討	症例検討 手術	症例検討 回診	病棟カンファ 回診
PM	手術	検査・ESWL 対診外来	検査・ESWL 対診外来	手術	検査・ESWL 対診外来	抄読会 勉強会

（勉強会）

1. 月1回（土曜日）京大マンスリーミーティングに参加
2. 月1回（水曜日）京大関連病院間の勉強会に参加
3. 週1回抄読会
4. 院内講習会、セミナーに参加

（学術活動）

1. 日本泌尿器科学会関西地方会にて発表、医学雑誌に投稿
2. 日本泌尿器科学会総会、中部総会、日本EE学会、日本生殖医学会等に参加
3. 学会教育プログラムに参加
4. 院内医局カンファレンス、医師会学術集会にて発表

#### 5. 評価

評価は、前期終了時の中間評価と後期終了時の最終評価の2回を原則とし、評価委員会が評価する。中間評価は後期研修のための参考資料として利用する。本プログラムの終了には、日本泌尿器科学会認定の専門医資格を取得することが必須である。

## 6. その他

泌尿器科は尿路を専門とする外科である。従って、診療は手術を中心に据えたものとなる。一流の泌尿器科医となるためには、幅広い症例を適切な指導医の下で経験する必要があるが、経験した症例数が多いければそれで良いというわけではない。下手な手術を10例見るより、洗練された美しい手術を1例見る方が遙かに勉強になる。当科ではこの点に留意して泌尿器科専門医を目指す諸君に機会を提供したいと考えている。また、「京都大学および関連施設における泌尿器科専門医教育プログラム」は非常に優れた、素晴らしいプログラムである。やる気のある若手医師の参加を期待する。